2024 年 10 月 26 日 BM 子どもネット研究会 セッション 3 テーマ交流会（企画要旨）

日本の学校現場を外国にルーツを持つ児童生徒とその保護者の視点から検討する

企画者：S. M. D. T. ランブクピティヤ（久留米大学）
共同企画者：Dinsara Senumitha MANAGE（福岡第一高等学校）
共同企画者：Anudi Dulakna MANAGE（弘学館高等学校）

≪背景≫

文部省の「外国人の子供の就学状況等調査」によると、令和元年度から令和 3 年度にかけて日本の小中学校に通う外国にルーツもつ児童生徒が 7.7%増加している。これに高校生も追加するともっと大きな数字になり、また、今後も外国にルーツもつ児童生徒が増加していくことが容易に考えられる。しかし、彼らや彼らの保護者である外国人の視点から日本の学校現場やその文化について明らかにする研究は少ない。だが、Manage（2024）では、外国にルーツを持つ児童生徒が校則や先生方の態度に変化を求めており、そのためには先生方への現場実践を通した研修等が必要だと提案されている。

≪目的と具体的な交流内容≫

そこで企画では、外国にルーツを持つ児童生徒と彼らの保護者が日本の学校現場で直面する葛藤や違和感をテーマに本交流会を行う。具体的には、事例を通じて、以下のような内容をフォロワーと共有し、意見交換を行い、参加者には学校現場の現状を理解・検討してもらい、さらに、それらの改善策を検討していく。これが本交流会の目的である。

1. **外国にルーツを持つ児童生徒の声**:
    - 学校にまつわる具体的なエピソード（給食なしのエピソード）や感じた葛藤、違和感（カイロ事件）など。
    - 外国にルーツを持つ児童生徒の目線からのそれらへの解決策。
2. **外国人保護者の声**:
    - 外国にルーツを持つ児童生徒のことで保護者がどのような心境なのか。
    - 学校現場においてどのような課題に直面しているのか。
    - 継承語教育の重要性と必要性

≪参加者への呼びかけとして、参加してもらいたいフォロワーの方々≫

- 教育委員会の方々を含む学校教育関係者
- 外国人保護者、日本人保護者
- 外国にルーツを持つ児童生徒、日本人児童生徒
- 外国にルーツを持つ児童生徒や彼らの保護者を研究対象としている方々
- 外国にルーツもつ児童生徒、彼らの教育と保護者に興味持つ方々
- バイリンガル教育、継承語教育に興味を持つ方々

≪フォロワーの参加者にしてもらいたいこと≫

上述した 1 と 2 の内容について、外国にルーツを持つ児童生徒や彼らの保護者の目線から考え、以下の 2 つのことを話し合ってもらいたい。

・日本の学校文化がわからない、このようなことで困っているなどの学校現場に関する様々な意見および課題
・それらに対する解決策など

≪交流会の意義≫

本交流会の企画者らは、外国にルーツを持つ児童生徒と彼らの保護者であり、当事者らの目線や実体験から色々なことが聞けるのみではなく、意見交換をしながらその解決策も探れるため、めったにない有意義な機会だと考えられる。そのため、この交流会を通じて、外国にルーツを持つ児童生徒がより良い教育環境で学び、成長でき、直接実践現場につながるようなアイデアを生み出し、実行に移すための一助となることを目的および期待としている。